

令和6年度 サビ管研修基礎研修

児童期のアセスメントについて

児童発達支援センター イーハートーブ養育センター

相談支援専門員 菅原 夏樹

個別支援計画の作成

子ども一人一人に合わせた計画の作成のために必要なこと

アセスメント

子どもの発達の全体像の把握を行うこと。

個別支援計画の作成

アセスメントの視点

・生物的要因(生理的、医学的側面)※バイオ

発達及び障がいの特性、生来的な気質、疾患(診断、病歴、生理学的特徴、服薬治療等)

・心理的要因(心理・学習・教育的側面)※サイコ

不安、葛藤、希望、自己イメージ、防衛機制など(認知発達、言語コミュニケーション、社会・情動発達、運動発達など)パターン行動

・社会的要因(環境、社会、文化的側面)※ソーシャル

対人関係(家族、支援者、仲間など)関係機関のつながり、環境構成(家庭や学校等)周囲の理解、かかわりなど

「発達支援(本人支援)」の内容 5領域

健康・生活

- ・健康状態の把握
- ・健康の増進
- ・リハビリテーションの実施
- ・基本的な生活スキルの獲得
- ・構造化等により生活環境を整える

運動・感覚

- ・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- ・姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- ・身体の移動能力の向上
- ・保有する感覚の活用
- ・感覚の補助及び代行手段の活用
- ・感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応

認知・行動

- ・視覚・聴覚・触覚等の感覚や認知の活用
- ・知覚から行動への認知過程の発達
- ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
- ・数量・大小・色などの取得
- ・認知の偏りへの対応
- ・行動障害への予防及び対応

言語・コミュニケーション

- ・言語の形成と活用、受容言語と表出言語の支援
- ・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- ・指差し、身振り、サイン等の活用
- ・読み書き能力の向上のための支援
- ・コミュニケーション機器の活用
- ・手話・点字・音声・文字等のコミュニケーション手段の活用

人間関係・社会性

- ・アタッチメント(愛着行動)の形成
- ・模倣行動の支援
- ・感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
- ・一人遊びから協同遊びへの支援
- ・自己の理解とコントロールのための支援
- ・集団への参加への支援

個別支援計画の作成

アセスメントのプロセス

- ①初期状態の把握
- ②基本的ニーズの把握
- ③課題の整理

<情報収集>

<情報整理>

アセスメントのプロセス

①初期状態の把握

現在の様子の把握

- ・行動観察
- ・環境観察（保護者のかかわり含む）
- ・関係機関のつながりと役割

※できれば「育ちのストーリー」としての把握もしておくといよい。（～歴など）
発達歴（妊娠中や出産時の状況、検診の様子）、病歴や療育歴など

アセスメントのプロセス

行動観察

事業所内における自由場面、場面設定での観察

保育、教育、地域活動場面での観察

→環境面、本人の困難さ、うまくいっている部分を観察する

※発達検査の結果

フォーマルな検査により実態把握の参考になる

ただし、検査の結果がすべてではない。

アセスメントのプロセス

②基本的ニーズの把握

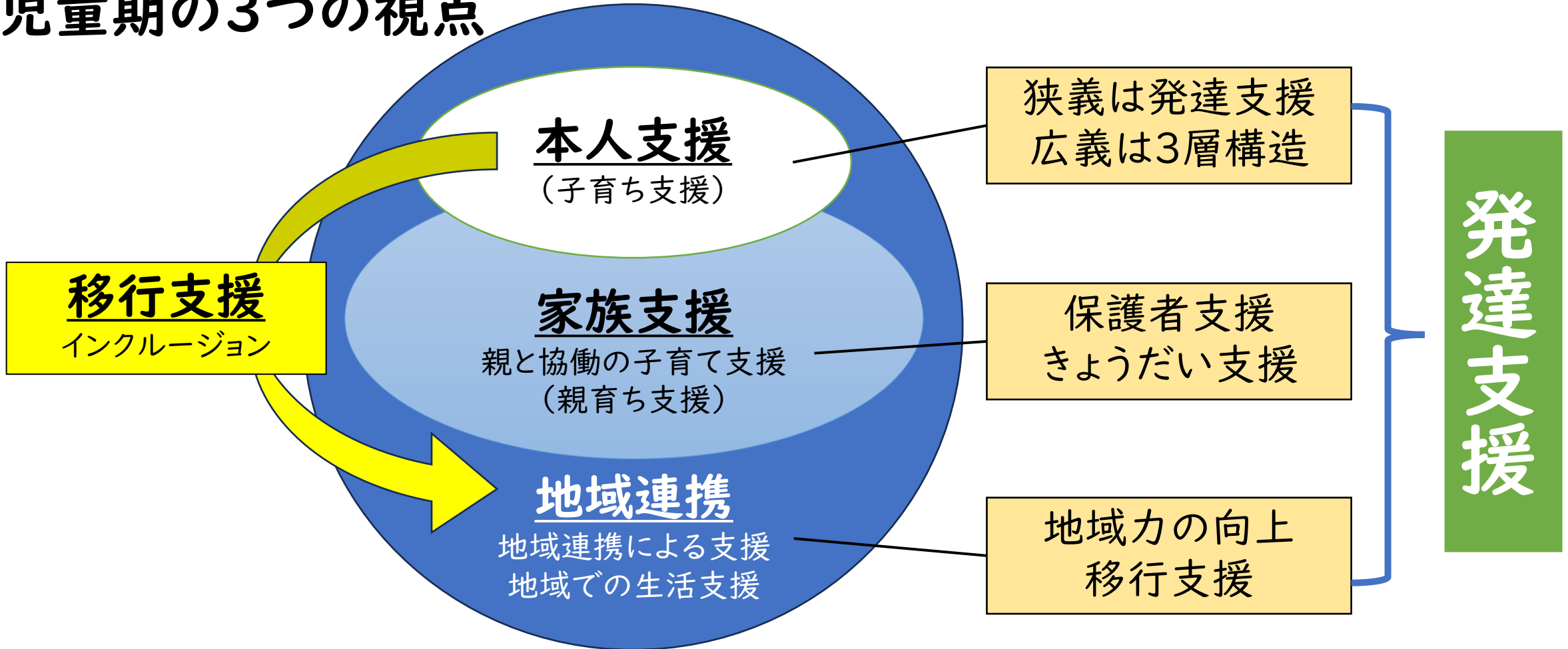
「発達支援」に即したニーズ把握

「家族支援」に即したニーズ把握

「地域支援」に即したニーズ把握

児童期における支援に関する基本的視点

児童期の3つの視点



アセスメントのプロセス

「発達支援」に即したニーズ

子ども本人の発達したいというニーズ

- ・生活習慣、社会技能等の自立課題の把握（できる／できない）
- ・運動や言語発達、認知特性の把握（得意／苦手）（強み／弱み）
- ・社会性・行動・情緒の発達課題の把握（未学習／誤学習）
- ・自分の希望（好きなこと、やりたいことなど）

発達支援（本人支援）

発達支援

「発達の視点」
「特性の理解と配慮」

- ・成長・発達の為の環境
- ・合理的配慮の視点

アセスメント

「発達評価」
「見立て」
「手だての選択」

- ・個別支援計画の観点
- ・療育の観点

障がい児特別の
権利ではなく
子どもとしての発達保障

支援提供

「生活」「遊び」
「休息」「養護」
を取り入れて提供されるべき

- ・子どもの権利
- ・発達保障として

※「家族支援」と並行して考えることが重要

アセスメントのプロセス

「家族支援」に即したニーズの把握

家族の希望（どう育ってほしいか）困りごと、不安など

- ・家庭内または外出時に困っていることの把握
- ・子どもの特性に応じた家庭環境、子育て力の把握

家族支援（保護者、養育者、きょうだい）

家族支援

保護者の特徴と
子どもの特性に配慮

- ・保護者が実現可能
- ・子育てに添った助言

アセスメント

「育児の傾聴」
「現状確認」
「手だての選択」

- ・きょうだい関係の把握

保護者の孤立
きょうだいに
負担を引き起こさない

支援提供

「家庭の生活状況」
「育児」「子育て」
の充実や軽減を想定して提供
されるべき

※地域連携・地域支援を意識してアプローチ

アセスメントのプロセス

「地域支援」に即したニーズの把握

地域生活を送るうえでの課題、関係機関の困りごと

- ・園で困っていること
- ・連携や役割分担が必要な機関の把握

地域連携・地域支援

地域支援

「地域との関係づくり」
「地域との協働」

子どもが地域の一員として
当たり前のように生活できる
よう、日々のコミュニケーションが重要

アセスメント

「所属機関との連携」
「行政機関との連携」
「友達関係の把握」

保育所、学校、医療
障がい福祉関連
子育て支援関連

支援連携

教育の見解
福祉の見解
医療の見解
行政の見解

支援提供

「移行支援」

就学、進学、就職など大きなイ
ベントのみでなく新旧などの
劇的な環境変化は毎年起こる

※発達段階とライフステージ移行には必要な支援
各所がポジションでの支援だけではなく連携が必要

アセスメントのプロセス

基本的ニーズの把握

注意する点は

- ・親のニーズ=子どものニーズとは限らない
- ・支援者のニーズ=子どものニーズとは限らない
- ・子どもの困り感に対しての発達のニーズ

※ニーズとデマンド(要求)は違う

アセスメントのプロセス

③課題の整理

◎集められた情報の評価→◎本人や家族の意向→

◎支援者が気になること→◎支援の課題の抽出→

◎将来の見通し

アセスメントのプロセス

課題の整理で大切な視点（発達期であることを意識する）

- ・主語を明確にすること
- ・事実と思い・推測を区別すること
- ・全体と部分（生活、発達等の要素）を見ること
- ・発達の順序性と非順序性（非定型）の視点
- ・学習（誤学習と未学習）の視点
- ・得意・強みと苦手・弱さの視点

⇒ 苦手・弱さをリフレーミングすることで支援の視点に気づくことがある。：
必ずしも悪いことではない、できている部分もある、支援に活用できる部分がある

⇒ できている部分を伸ばす、活用する、発展させる。

子どもに即した目標設定

支援を取り組む期間を設定

- ・長期目標と短期目標

具体的支援内容の記載

- ・実際の支援を具体的に記載することで、だれでも同じ支援ができるように

スモールステップの意識を

- ・目標を高く設定しすぎないこと。目標達成までのプロセスを考える。

支援を取り組む期間を設定

長期目標と短期目標

ある程度の期間を決めることで、ずっと同じ目標にならないようにする。

長期⇒1年 短期⇒半年 など

ある一定期間取り組んで達成できない目標は、目標が子どもにとって高すぎたか、実態把握の段階で見立てが間違っていた可能性があるので見直しをする。

具体的支援内容の記載

人によって違う支援の行うことを防ぐ
一貫したかかわりを目指す

具体的であればあるほど、取り組みやすい。抽象的な表現は避ける。

「楽しく」「ちゃんと」「安定した」など、人によって捉えが違うものは記載しないように気を付ける

スモールステップとは

スモールステップ

目標に対して段階的にできることを重ねていく考え方。

一つの目標に対して、達成するまでの細かい段階を明確にして、支援を行いやすいようにする。

スモールステップとは

スモールステップの利点

目標のハードルを下げることによって、子どもに対して「できたね」と伝えられて、子どもの自己肯定感がアップする。

支援者も目標達成「できた」と感じることで、自分の支援に対して自信につながる。

支援の評価

障がいのある子ども様子を記録し、評価する。

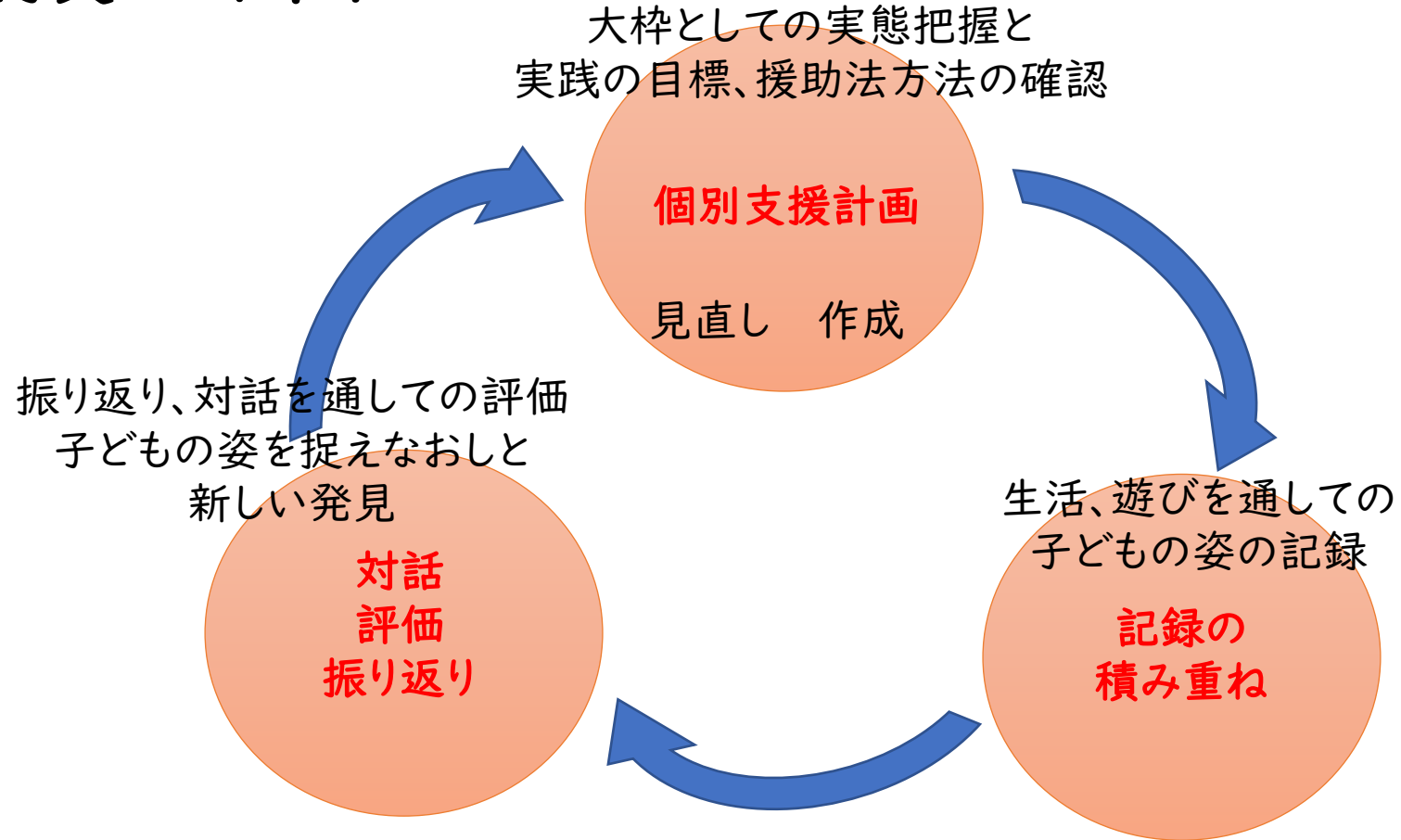
目標を設定し、具体的支援内容で支援を行った結果、どのように子どもが変化をしたかを評価する。

記録の積み重ねは重要

また、周りの支援者からの情報なども見直すヒントとなる。

一人で見直すのではなく、チームで話あう。ケース検討会。

支援の評価



個別支援計画に基づく記録と評価の過程

支援の評価

記録の注意点

- ・主語をはっきりさせる
- ・支援者の思いや推測ではなく事実を記載する
- ・時系列を分かりやすく
- ・抽象的な言葉は控える。

支援の評価

チームでカンファレンスをする意味

個別支援計画に基づいた支援の評価を行う際には、一人ではなく、チームで行うことが大事となる。支援者一人で抱えるのではなく、チームで取り組むといったことが確認でき、責任が一人に集中することを防ぐ。

見直しはあらさがしではない。ポジティブに捉えていく。

見直しも何度かけてもよい。目標に設定はしたけれど、難しいようであれば、みんなで集まって見直しをかけてよい。一度立てた目標に縛られないということに気づきやすい。

参考資料

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者養成研修従事者国研修

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者養成研修従事者専門研修

児童発達支援ガイドライン(令和6年7月)

放課後等デイサービスガイドライン(令和6年7月)